



北海道大学新渡戸カレッジ同窓ネットワーク誌

ACROSS

2020年7月15日発行

No. 1



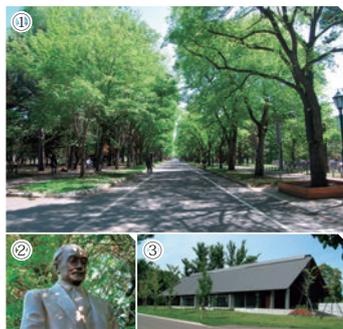
北海道大学新渡戸カレッジ同窓ネットワーク誌

ACROSS

〈目次〉

2. 同窓生の近況
3. 主なイベント及びプログラム紹介
(学部教育コース)
4. 主なイベント及びプログラム紹介
(大学院教育コース)
5. フェロー・メンター情報
6. 新渡戸カレッジの現況
7. 新渡戸カレッジ同窓会及び
各同窓会の紹介

- ①メインストリート
- ②新渡戸稲造博士顕彰碑
- ③遠友学舎



はじめに

北海道大学新渡戸カレッジ副校長
山口淳二



北海道大学新渡戸カレッジ同窓ネットワーク誌の初刊にあたり、ご挨拶させていただきます。

本誌「ACROSS」の名前の由来をお分かりでしょうか？若き（21歳）新渡戸稲造の名言「願わくは、われ太平洋の橋とならん I wish to be a bridge ACROSS the Pacific」にちなんでいます。新渡戸カレッジ教頭の弮和順先生によるご提案です。

まず、新渡戸カレッジ創設から現在までの経緯について少し述べましょう。新渡戸カレッジ(学部教育コース)は2013年4月に、また新渡戸スクール(大学院教育コース)は2015年4月に創設されました。創設当時より、新渡戸カレッジは海外留学を修了要件とし、かつ同窓生からなるフェローによる対面教育を特徴としております。一方、新渡戸スクールはグループワークを中心とする先端的な教育手法を特徴とし、共に学部や大学院間の部局を横断した(これもACROSSですね)特別教育プログラムとしてエッジの効いた存在でした。新渡戸稲造の名前を冠した両者は着実に発展してきましたが、2019年4月に統合して、新たに「新渡戸カレッジ」が発足しました。学部-大学院を通貫した包括的な教育実施組織への刷新を図るためです。その結果として、スクールの名前はなくなりました。新渡戸スクールに誇りと愛着を持っておられた方々には申し訳なく思いますが、今後は「新渡戸の修了生」ということで一緒に願えれば幸いです。

新渡戸カレッジは創設から今年で8年目となります。この間、先に示したスクールとカレッジの統合をはじめとして、多くの授業科目の新設、二段階教育制度への移行(基礎プログラムとそれに続くオナーズプログラムの設置)等、様々な改革がなされてきました。現役生が在籍する新渡戸カレッジ「本体」は少しずつですが着実に進歩してきています。おかげさまで、本年度の日経新聞「人事が見る大学イメージランキング」(<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO59906530T00C20A6TCN000/> ※右下のQRコードからアクセスできます)では新渡戸カレッジが評価され北海道大学が1位に入りました。これもひとえに皆さまのご協力の賜と感謝しております。しかし、これは完成形にはまだ程遠い姿です。現役生や関係教職員、そして新渡戸カレッジフェローやメンターがいる本体に加えて、カレッジ修了生や本学同窓生とのつながり=ネットワークが確立してはじめてその完成形に近づくのだと思います。8年前に作成した新渡戸カレッジ構想調書では、このようなネットワークを「新渡戸ネット」と名づけました。本誌の創刊は、皆様相互の交流を手始めとして、少しでもその先ACROSSに共に歩むための手助けをしたいとの意図に基づいています。

北海道大学キャンパスは、これから緑あふれる季節となります。本誌表紙の写真をご覧ください。この豊かなキャンパスを学び舎とした者は、皆一瞬にして、その当時の思い出が蘇ってくるのではないのでしょうか。そうした思いを胸に、本誌をご覧いただけましたら幸いです。



ブリティッシュコロンビア大学新渡戸記念庭園(カナダ)



日経新聞サイト

ライフワーク バランスで生きる

木村 まい

2013年 新渡戸カレッジ 第1期生



新渡戸カレッジ1期修了生の木村まいと申します。2019年度より、地方公共団体に勤務しています。

最近、私の職場では時差出勤やフレックスタイム制等の多様な働き方に取組んでいます。大学一年生の時に短期留学で訪れたフィンランドでは、夕方に閉店してしまうお店の不便さが気になり、当時聞き慣れていなかった「ライフワークバランス」という考え方に実感がわきませんでした。しかし、自分が働く身となった今、働く人それぞれに合った持続可能な働き方を社会全体で模索していく必要性を強く感じています。

留学先での経験は、目の前の「当たり前」に対し、それが本当に最適なのかを問い続ける重要性を教えてくださいました。学生時代にはしっかりと悩みぬいた経験は、今も私を支えています。

2020年は新型コロナウイルス感染の世界的な拡大で、激動の一年となりそうです。なすべきことをしっかりと見据えて、着実に進んでいきたいと思えます。末筆ながら、皆様のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

動物ウェルフェアを 探究する

但 申

Shen Dan : Wageningen 大学
Animal Sciences 修士課程(オランダ) 修了
2013年 新渡戸カレッジ 第1期生



こんにちは。新渡戸カレッジ1期生OBの但 申といいます。昨年12月にオランダのWageningen大学のAnimal Sciences修士課程を修了しました。専攻は家畜の行動学とアニマル・ウェルフェアでした。アニマル・ウェルフェア（動物福祉）とは、行動学や生理学などの知見をもとに飼育動物のストレスを軽減させ、快適な飼育環境を考案する研究分野です。

修士一年目では専門分野の幅広い授業を履修し、二年目では異なる修士論文研究を二つ行いました。一つは乳牛の情緒を示す指標の一つとして、牛の耳の動作を調査しました。もう一つは日本とオランダの大学生の家畜のウェルフェアに対する意識を比較研究しました。大学院在学中は学問や研究、農場見学や様々な文化圏の学生との交流など、充実した学生生活を送ってきました。今後も欧州の大学の博士課程でアニマル・ウェルフェアに関する研究を続けたいと思えます。

See from a bird's eye view

—私は誰で、
—今どこにいるのかを考える

佐伯 百合子
株式会社資生堂 研究員

2015年 新渡戸スクール 第1期生



私は現在、研究員として仕事をしています。社内公用語は英語ですので、仕事を進める上で英語でのコミュニケーションは必須です。新渡戸スクールにおいて、英語で経験したアクティブラーニングや、完全なアウトプット型の学習はとても価値があり、社会でも活かしているとともに、大きなアドバンテージになっていると実感しています。

加えて、新渡戸スクールでの学びで役に立っていると思うのは、社会還元力の中の「社会的役割認識」です。自分が今立っている場所や、取り組んでいる研究が、社会全体の中でどのような位置にあるのかを客観的に見て、正確に把握できているかどうかは、その人の主張の論理性や納得性を左右すると感じます。新渡戸スクールの中で、これらについて考えるトレーニングができたことは、現在も研究の立案や上司への提案時に大変役立っており、自分のやりたいことを実現する大きな助けになっていると感じています。

新渡戸スクールを修了して数年経った今でも、スクールで出会った仲間とは集まる機会があります。彼らの頑張りは私にとって大変良い刺激になっており、自分ももっと頑張ろうというモチベーションを高めてくれています。

Utilize your Expertise, unleash your potential

—専門性を生かし、可能性を切り開け

前田 美紅
株式会社ニトリ 店舗運営

2017年 新渡戸スクール 第3期生



とても刺激的だった新渡戸スクールでの議論があります。議題は「What is Globalism?」。チーム5人で議論をしました。「共通言語の発生」「多国籍企業の増加」「自由貿易の拡大」「ゲノム編集」。人間の思考とは本当に興味深いもので、誰一人として同じ考え方をしなかったのです。

私が新渡戸スクールで学んだ理由はここにあります。英語を共通言語に、各研究科から国籍も文化も価値観も違う学生が集まり、問題解決にあたる。当時の私は、通訳翻訳を専門分野として研究していました。人間の強い感情を受け止め、理解し、当事者目線で代弁するのが通訳翻訳技術です。新渡戸スクールでは、集まった多彩な人々との活動の中で、当事者目線を鍛え、且つ自分の専門性を最大限に生かす力を身につけました。

通訳翻訳以外にも自分の専門をもちたいと考え、大学院修了後はビジネスの世界に飛び込みました。自分の専門性、通訳翻訳技術をビジネスの現場でも使えるように鍛える傍ら、全く領域の異なるタスクにも挑戦しています。チームで動くことが当たり前環境において、新渡戸スクールで鍛えた相手目線で考えること、違いを認め合うことは仕事のパフォーマンスを支える大きな基盤になっています。

◆同窓生の近況◆



学部教育コース

■グローバル基礎科目

基礎プログラムの必修科目です。春ターム「国際理解と海外留学」ではオムニバス形式の授業により講師から国際社会の現状や課題を学び、自身の留学へとつなげます。夏ターム「リーダーシップとチームワーク」ではグループ活動を中心に、リーダーシップについて考えを深め実践することを目指します



■対話プログラム

カレッジ生が大きな変化の時期を生きてきた社会の第一線で活躍するフェローと1対1で話し合い、考え行動する力、人間性と人生設計などについて新たな視点と未来へのヒントを得る機会です



■短期留学スペシャル・プログラム

北大の海外協定校において地球規模の課題解決に向けた多様な講義と実習がカレッジ生を育てます。写真Aは、アラスカ大学フェアバンクス校における寒冷域森林の特徴や成り立ちに関する野外での講義の様子です。写真Bは、ワシントン大学フライデーハーバー臨海研究所における沿岸生態系の生物多様性についてのフィールドワークの様子です



■フェローゼミ

社会で活躍するフェローが指導する少人数の演習形式の科目です。世界が抱えている諸問題について深く学ぶとともに、実際に現地視察で体験し、グループワークを通して学問と社会のあり方や持続可能な社会のあり方を考え、リーダーシップやチームワーク力を身につけます



■セルフキャリア発展ゼミ

合宿を含む継続的なキャリア・セミナーを通して、自分の将来のビジョンを描き、目標の実現に向けて取り組む際の手がかりを得るゼミです。フェロー・学部メンターが、良き相談者・伴走者として学生の成長を促します



新渡戸カレッジ 主なイベント・プログラム紹介

大学院教育コース

■大学院基礎科目I —チーム学習の基礎

異なる国籍や専門分野の学生が協働でプロジェクトに取り組み成果を創出するために必要な基礎的な能力と知識：創造的・批判的思考、リーダーシップ、専門職倫理などを身につけます。テーマ：AI Ethics for Developers, Users and Legislators; War and Ethics: Research Development and Dual Use; Human Remains of Ainu People and Research Ethics



■大学院基礎科目II —チーム学習の実践

チームで課題プロジェクトを効果的・効率的に遂行するため、プロジェクトマネジメント（PM）を取り上げ、これを体得します。最終授業では、メンターとの質疑応答を通してプロジェクトの実現性を深く考究します。テーマ：Sustainable & Resilient City Sapporo; Refugee Response Plan in Sapporo; Snow Removal Project in Sapporo; Tourism Management in Hokudai



■大学院発展科目I&II —課題解決&問題発見

SDGsに関連するテーマについて、ローカルとグローバルな視点から様々な課題の解決と問題発見に挑みます。課題解決策のディスカッションはもとより、フィールド調査等を通して真の問題を探り出し、物事を多角的に見る力を養います。テーマ：課題解決 Migration in Japan、問題発見 Sapporo & Hakodate in 50 Years



■大学院特別演習

—企業課題解決演習 (DEMOLA) & Hult Prizeチャレンジ

参加学生はアントレプレナーシップへの理解を深め、企業が抱える課題（DEMOLA）と社会的課題（Hult Prize）を解決するためのプロジェクトを立案します。DEMOLAは北大が日本初で導入しました。Hult Prizeでは、カレッジ生が参加したチームが地域大会で日本のチームとして初めて優勝し、イギリスでのトレーニングイベントに参加しました



■メンターフォーラム

2019年度の本イベントでは『キャリアパスとキャリアチェンジを考える』をテーマに、多様な分野でグローバルに活躍するメンターの英語による講演とカレッジ生との対話交流を行いました。学生は、メンターから新渡戸カレッジの教育が社会人となった後役立つことを聞き、自分の学びに自信を持ち、大学院博士課程への進学、起業家への道など視野を広げることができました



フェロー・メンター情報

北海道200年へ向けてノブレス・オブリージュの道を進もう…



佐々木 亮子
フェロー

1972年 北海道大学法学部卒業
有限会社アールズセミナー代表取締役
元北海道副知事

標題は、役割を担う者はそれに応じて責任と義務があるという西洋の道徳観を表す言葉ですが、新渡戸稲造も「武士道」の中で同じように「The spirit of Japan」を書いています。

私は、司法試験に失敗して大分遅れて就職しました。1995年49歳の時に教育コンサルタント業の会社を起業し、社員教育という分野で何10年も生きてきました。2002年55歳の時に堀達也北海道知事（北大農学部林学科卒）の下で副知事に就任しましたが、民間人が行政を経験したことで自分自身が変わったと思います。環境の変化を受け入れて、自分が適応することによって新しい視界が広がり、様々なリーダーシップのフィールドが与えられてきたと実感しているところです。

皆さんには、書物やインターネットからの情報収集だけでなく、「人の話をよく聞く」「相手の役に立つことをする」「自ら動く」の三点を意識して実践することをお勧めします。

実体験を通して皆さんのリーダーシップのセンスが磨かれ、その先にはノブレス・オブリージュの精神を持った自己形成という世界が開かれることでしょう。

北海道200年を創っていく皆さんに、フェローは伴走させてもらいます。

実体験に加え、フェローの経験も活用し、それぞれの夢の実現へ



大友 俊彦

1992年 北海道大学獣医学部卒業
中外製薬株式会社
トランスレーショナルリサーチ本部
早期臨床開発部長
獣医師 獣医学博士

新渡戸カレッジの話を知った時に、自分が学生の時に同じようなプログラムがあったら、もっと広く興味を持ち、様々な経験できたのではと感じました。

と言うのも、私は学生時代に海外に視野を向けることは全くありませんでした。獣医になるという目標から、新しい医薬品を生み出すことに携わりたいと目標を変更し、製薬企業に入社して初めて、自分の夢を実現するためには、身近な周りのことだけでなく、世界中に目を向ける必要があることを知りました。

今は、私の学生時代と違って、様々な情報や、自分が知らないことも簡単に調べることができます。ただ、実際の経験でしか得られないことはたくさん存在します。特に失敗から学ぶべきこともたくさんあります。

新渡戸カレッジは、多様なプログラムを通じた実体験の機会が準備されています。さらに、フェローとの対話、交流を通じて、フェローの経験に触れ合うこともできます。グローバルで活躍する本質を、さも自らが経験したかのように感じることも可能であり、そこでは、失敗や苦労を通じた経験も知ることができます。新渡戸カレッジは社会の入り口となり、そこでの経験がそれぞれの夢の実現につながっていくと思います。

誰も正解を知らない時代に、北大の開拓者精神を再発見しよう



中原 拓

2001年 北海道大学農学部卒業
2007年 北海道大学理学研究科
博士後期課程修了
メタジェンセラピューティクス
代表取締役社長
遠友ファーマ 取締役
ファストトラックイニシアティブ
ベンチャーパートナー

北大では農学部で学部4年間および理学研究科博士課程の3年間お世話になり、その後助教として約1年半勤務させていただきました。北大発バイオテックベンチャーを米国で立ち上げ約6年続けたので、約15年に渡り北大と直接関係するところで生きてきたこととなります。新渡戸カレッジのメンターも5年ほどさせていただいております。

北大で学問を通じて学んだ最大の財産は仮説構築力・検証力だと思っています。不確実性が高い中で質の高い仮説を構築し検証するという学問の基本動作は、不確実性が高まる時代には極めて有効な生きる力となるはずで

私は元々純粋な学問を愛しており、「役に立つ研究」など大学でやるべきではないと考えている理学人間です。ただ一方で学問を護るためにも社会へのインパクトを出さざるを得ず、私に与えられた役目はそちら側だと認識しております。

2010年代以降、一流の研究者・学生が起業する時代に入りました。私自身ベンチャーキャピタルや起業家の立場で大学発の知からインパクトを生み出そうと努力しております。北大は大学発ベンチャー数が極端に少なく、学問レベルの高さに比して起業家精神・アンビシャスが低いと考えざるを得ません。学問で身につく仮説構築力・検証力はスタートアップにも必須のスキルです。北大から新しい時代のリーダーがたくさん生まれるよう、私は新渡戸カレッジなどを通して貢献する所存です。

■フェロー・メンター制度(学部教育コース)

新渡戸カレッジ生がフェロー及びメンターとの出会いを通して、人生の意味や大学で学ぶことの意義を考え、自己省察する機会を得ることを目的とします。学外の社会経験、人生経験豊かなフェロー及びメンターと身近に接し対話することで、カレッジ生は視野を広げ、世界の抱えるさまざまな課題に対してアンテナを張り、自分に何が出来るかを考え行動する力を鍛えることができます

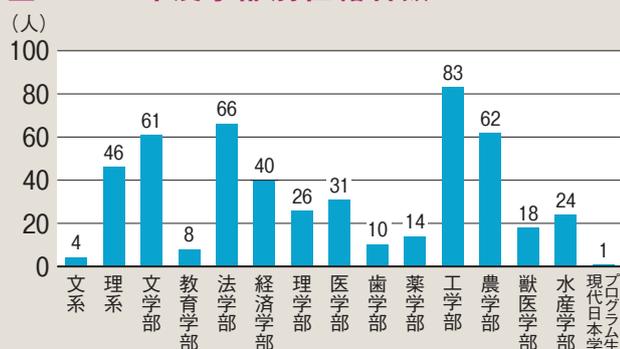
■大学院メンター制度(大学院教育コース)

大学院メンターは、新渡戸カレッジ大学院教育コース(旧新渡戸スクール)および本学大学院の修了生、さらに北海道内で活躍する人材から選ばれ、実社会での経験と人脈を活用して、新渡戸カレッジ大学院教育コース生の学修経験とキャリアプランをサポートします。カレッジ生は毎年、メンターとの交流の機会があり、学生のキャリア意識の涵養、社会的視野の拡大、人的ネットワークの形成などの支援を受けます

新渡戸カレッジの現況

学部教育コース

■2019年度学部別在籍者数(合計494名)



■2019年度奨学金

2019年度奨学金のうち、ご寄付頂いたフロンティア基金と校友会による新渡戸カレッジ生への奨学金付与は右図のとおりであります。様々な留学プログラムを履修し、海外に留学した新渡戸カレッジ生の旅費や現地滞在費の支援として、また優秀な成績を修めたカレッジ生の奨学金として利用させていただきました。以前より、校友会エルムのホームページあるいはホームカミング日の集会等において、ご支援いただきましたカレッジ生からの留学報告と奨学金支援の感謝を述べさせていただいております。今後、この紙面におきましても、定期的に報告させてもらう所存であります。

ご支援を頂きましたカレッジ生一同にかわり、深く感謝申し上げます。

(新渡戸カレッジ副校長 山口淳二)

■学部教育コース修了者の主な進路

〈一般企業〉

日本IBM、パナソニック、清水建設、竹中工務店、日立造船、三菱電機、本田技研、DIC、ニトリ、ベネッセコーポレーション、中外製薬、時事通信社、朝日新聞社、アクセンチュア 他

〈官公庁〉

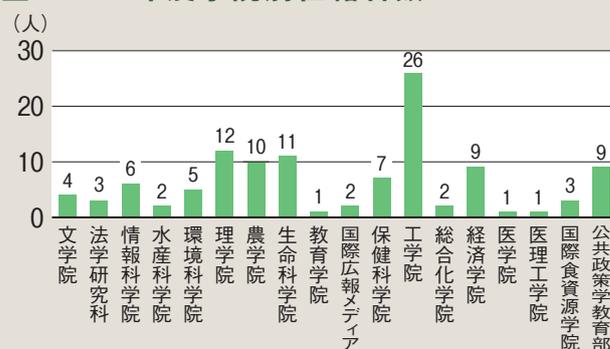
経済産業省、厚生労働省、環境省、東京都庁、札幌市役所、名古屋市役所 他

〈修士課程進学〉

北海道大学大学院、東京大学大学院、京都大学大学院、Texas A&M University大学院(米国)、Wageningen University大学院(オランダ)、Swedish University for Agricultural Sciences大学院(スウェーデン) 他

大学院教育コース

■2019年度学院別在籍者数(合計114名)



■大学院教育コース修了者の主な進路

〈一般企業〉

NTT、デンソー、ニトリ、パナソニック、IHI、KDDI、イオン、コマツ製作所、ジョンソン・エンド・ジョンソン、ソニー、北海道新聞社、みずほフィナンシャルグループ、三菱商事、参天製薬、資生堂、双日、電通、富士通、日産自動車、日本たばこ産業 他

〈官公庁〉

法務省、警察庁、気象庁、北海道庁、北海道立総合研究機構 他

〈大学〉

北海道大学(農学研究院、保健科学研究所、病院)、Jahangirnagar University(バングラデシュ)

〈博士課程進学〉

北海道大学大学院

Nitobe College
新渡戸カレッジ
同窓会の紹介 &
入会について

北海道大学新渡戸カレッジ同窓ネットワークでは、新渡戸カレッジ・スクールに在籍したカレッジ生、在校生、フェロー・メンター及び関係教職員等に相互交流の場を提供しています。皆さん、本同窓ネットワークにおいて、相互の親睦、互助そして知徳の啓発をはかりませんか。

下記のHP 又は QR コードから是非ご入会ください

Registration for Membership in
Hokkaido University Nitobe College Alumni Network
北海道大学新渡戸カレッジ同窓ネットワーク入会フォーム

新渡戸カレッジ生
(Nitobe College Alumni)

<https://ws.formzu.net/fgen/S23755582/>



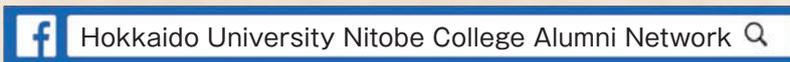
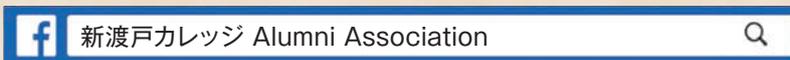
フェロー・メンター・関係教職員
(Fellows, Mentors, Instructors)

<https://ws.formzu.net/fgen/S31898088/>



Join us!

Communication via Facebook



校友会エルム、東京同窓会、関西同窓会、ほっかいどう同窓会の紹介

校友会エルム

<https://www.alumni-hokudai.jp/>

長い歴史に裏付けされた豊富な人材とその人脈は、北海道大学の大きな財産です。かつて同じキャンパスで学んだ者同士が集い、相互の親睦のみならず互助そして知徳の啓発を図ることは、同窓であることの喜びです。

その財産を用いて、2016年6月に、北海道大学の目的及び使命の達成に連携・協力することを目的として「北海道大学校友会エルム」が発足しました。校友会エルムは、各学部・大学院の同窓会、国内の各地同窓会そして海外の同窓会の会員によって組織されています

関西同窓会

<http://hokudai-kansai.com/>

北海道大学関西同窓会は同窓生の交流と親睦をはかることを目的として創立されました。現在、近畿圏を中心に1,000名超の会員を擁します。本学はもとより、各地域、各学部同窓会等と連携しながら、活発に活動を行っております

東京同窓会

<http://www.hokudai-tokyo.org/>

北大東京同窓会は、関東・甲信越地域（東京、神奈川、埼玉、千葉、茨城、栃木、群馬、山梨、長野、新潟、静岡の1都10県）に在住・在勤の北大卒業生が卒業学部の違いを越えて集う同窓会です。

現在約2,000名の会員を擁しています

ほっかいどう同窓会

<https://www.hokudai-hc.com/>

北大ほっかいどう同窓会は北海道に在住、在勤する北大卒業生・教職員など個人の関係者が学部の違いを越えて集う同窓会です。北海道地域外の同窓生も個人会員になることができます。

原則として事務局を通してメールなどインターネットで個人会員と情報交換するネットワーク型の会です。

平成26年4月18日に設立し、現在会員の募集を行っております

北海道大学新渡戸カレッジ同窓ネットワーク (HU-NCAN)

北海道大学新渡戸カレッジ推進事務室 〒060-0817 北海道札幌市北区北17条西8丁目 TEL: 011-706-5414 E-mail: ncan@academic.hokudai.ac.jp

2020年7月15日発行